

令和4年度玉名女子高等学校 学校評価

本校教育の目的

本校は、普通科・ビジネス科・食物科・看護学科の各教育課程を通して、それぞれの分野の基礎・基本はもとより、専門的・職業的知識や技能を修得し、急速に発展している国際化・情報化・高度化社会に遅れることなく、将来の日本が目指している男女共同参画社会に十分対応できる人材の育成を目的とする。

重点努力目標

1. 基礎学力充実のための取り組み 専門性習得のための指導力の強化
2. 基本的な生活習慣の確立を図るための取り組み（見えない学力の充実）
3. 文武両道
4. 人権・同和教育の推進
5. 働き方改革の推進

重点努力目標に対する自己評価総括

評価項目		評価	総括
重点目標 1	1 教師指導力の向上	B	「わかりやすい授業の工夫」「授業環境づくりへの努力」については生徒の肯定的評価は漸増しており、特に1年生の評価が高い。今年度より学年進行でタブレットを導入していること、全教室に大型モニターやアップルTVを設置しICT導入を図ったことが一因と考える。しかし、十分な活用に至っていない状況である。また、生徒からは教えあいの時間や自分で考えて発信する時間を持ってほしいという意見も多い。今後効果的な授業実践につながるよう、教員のICTスキルを高める研修や、それぞれの実践を共有する場を持ち更に授業改善を図っていく。落ち着いた環境作りのための朝読書については教師、生徒ともに評価が大変低い。クラスや授業によっては集中して授業に取り組めないという声もあり、教師の指導力が求められる。
	2 生徒の基礎学力の向上を図る	B	生徒の肯定的評価は7割を維持しているものの、年々低下。教師の評価も低下している。特にマナトレの効果については教師の肯定的評価が最も低く、半数以上が否定的な評価をしている。昨年度より教材の見直しをし取り組んできたが、改善がみられない。何のために行うのか教師がその意義を再確認し、指導方法を検討し、生徒にもそれを伝える必要がある。加えてその効果を評価する方法を検討していく。
	3 専門性習得のための指導力の強化	A	「専門学科の学習内容の充実」については生徒、教師ともに肯定的評価は8割をこえており、特に3年生の評価が高い。「そう思う」と答えた生徒の割合も最も高く、保護者の満足度も高い。今後も教員各自が専門性を高める努力をするとともに、前述の授業改善を図っていくことで、生徒・保護者の満足度につなげていく。また、学習内容や学習の成果を対外的に発信する方法を工夫することで生徒募集にもつながると考える。「資格・検定の取り組み」についても生徒の肯定的評価が上昇した。生徒のモチベーションの維持にも大きくかわるものである。現状把握とその後の対策のために、また、生徒の動機付けのために、結果の確認・公表を行い、積極的に検定に取り組む雰囲気づくり、より効果的な指導につなげていく。
重点目標 2	4 基本的な生活習慣の確立と安全な生活指導	B	生徒の肯定的評価は服装や髪型について約8割、掃除・挨拶については7割程度、指導の丁寧さについては7割を切っている。教員の自己評価でも令和元年度は9割以上が肯定的評価をしていたが年々低下し、今年度は75%である。「心の悩みへの取り組み」については、生徒、保護者の肯定的評価は昨年度より上昇しているものの6割を切っている。いずれも本校教育の要である。教師自身が丁寧な指導ができていないと感じているのであれば、さらに生徒に関心向け、様々な場面で指導の機会をとらえられるような意識を共有し、適切かつ丁寧な指導を行っていく。また、教員同士、外部機関が連携し、多方面から関わる努力の継続、生徒・保護者の気持ちを汲んだ誠実な対応などを積み重ね、積極的に保護者と連携する姿勢を示し信頼関係を構築することで、保護者、生徒の満足度につなげていく。 健康で安全な学校生活については、生徒、教師ともに評価が下がっている。感染対策は昨年同様に行ってきたが、制限緩和の動きに合わせて、学校の方針を見直す必要がある。
重点目標	5 進路指導を目指した指導	B	「進路指導」については教員、生徒の7割が肯定的評価をしている。「年間を通じた計画的な指導」については、教員の肯定的評価は上昇したものの7割を切っており、進路指導部を中心に各学年・学科とともに計画を見直し、LHR等との連携も考慮していく。模試の分析など、生徒の学力を把握した上での適切な指導も継続したい。「進路指導室の利用」については生徒の肯定的評価は4割程度で昨年度並み、教師の評価も大きく下がっている。3年生のみを見ると6割が肯定的評価をしており、1年次より折に触れ進路指導や進路指導室を活用する機会を作る必要がある。

3	6	文武両道を目指す学習と部活動の両立	B	生徒の肯定的評価は6割程度で昨年度並みであるが、教員の肯定的評価は大きく低下している。保護者の評価は大きく上がり、8割は学校行事や部活動、生徒会活動が積極的に行われていると評価している。生徒、教師の評価を下げた要因を探り、新学習指導要領に基づいた入試も視野に入れ、今後の在り方を検討していく。
重点目標 4	7	人権同和教育の推進といじめを許さない心の涵養	C	<p>「体罰・ハラスメント」について、生徒の肯定的評価はここ数年7割を切っており、教員に比べ低い。平成29年度は88.5%の評価を得ていた。互いにマナーを意識したり、教員同士で互いの言動を点検するなど、冷静で丁寧な対応を心がける。「いじめのない環境づくり」については教員の肯定的評価は高いが、昨年度よりポイントを下げている。これは教員が以前より問題意識を持ったためと考えたい。生徒の肯定的評価は6割程度であるが、「いじめのない環境づくりに努力していると思わない」と答えている生徒は明らかに減少している。教育相談、心のアンケート、生徒の言動等からいじめを敏感に認知、丁寧に組織的な対応、毅然とした指導をすることにより改善していく。また、職員研修、生徒対象の講話など人権意識を高める取り組みを計画していく。</p> <p>「心の涵養」では、読書習慣、国際交流による異文化理解共に評価が低い。コロナ禍以前は国際交流は本校の強みであった、現在交流が途絶えており、オンライン等現状でも実施できる方法を模索し、体験者を増やしていく。</p>
重点目標 5	8	働き方改革の推進	C	「休暇の取得」については、感覚的には取得率は高くなっているが、肯定的評価は6割で昨年度並みである。「各部署での仕事のスリム化」については肯定的評価は3割、「そう思わない」と答えた者の割合が3割で最も高く、職員の満足度は低い。目の前のことに追われ、仕事全体を見直す余裕もない状態か。各部署における行事、取組等を見直し、できることから工夫・実践し改善する意識が必要である。
	9	魅力ある学校づくり	B	「学校行事」について、生徒の満足度は7割を切っている。この2年間の様々な制限により、以前の形に戻っても継承ができず、生徒が手探りの状態で行事に取り組んでいることが評価を下げる一因であるならば、教員の適切な指導が必要である。行事の見直しだけでなく、教師の指導力も求められる。「女子高らしさ」については生徒の肯定的評価は昨年度並みで6割、教員は昨年度より12ポイント下げ、7割を切っている。「生徒の満足度」については生徒の肯定的評価は7割程度を推移しているが、教員の評価は低下している。教員が問題意識を持ったと考えたい。その上で、施設設備、学校行事、生活指導など、改めて「建学の精神」や女子教育の視点で全職員で確認し、各部署での年間反省や次年度の目標設定などの過程を通して、具体的にしていくことで満足度の向上をめざしていく。